



平成 29 年 7 月 31 日

各 位

会 社 名 マルコ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 岩本 眞二  
(コード 9980 東証二部)  
問合せ先 執行役員 管理本部長兼経理部長  
巻田 眞一郎  
(TEL 06-6455-1205)

## 業績予想及び配当予想（復配）に関するお知らせ

未公表でありました平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想及び配当予想を下記のとおり、お知らせいたします。

記

### 1. 連結業績予想

平成 30 年 3 月期 第 2 四半期連結累計期間（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	—	—	—	—	—
今回発表予想 (B)	7,300	500	480	700	8.19
増減額 (B-A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期 第 2 四半期連結累計期間)	6,566	△242	△212	△73	△1.29

### 2. 配当予想

	年間配当金		
	第 2 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想	—	—	—
今回発表予想	0.00	1.00	1.00
前期実績 (平成 29 年 3 月期)	0.00	0.00	0.00

### 3. 概要

#### 【平成 30 年 3 月期 第 2 四半期連結業績予想について】

第 2 四半期累計の連結業績予想につきましては、成長軌道へ乗せていくための諸施策の検証など不確定要素を含んでおりましたことから合理的な算定が困難であるため未定としておりましたが、最近の業績動向等を踏まえ、当予想を公表いたします。

平成 30 年 3 月期、当社グループは、インフォーマーシャル（テレビ CM）や Web 広告等のマーケティング活動など成長への投資を戦略的に実施し、売上高 150 億円、営業利益 12 億円、経常利益 13 億円、親会社株主に帰属する当期純利益 11 億円を達成し、その後の中長期的な成長軌道へと繋げていくことを目指しております。

このような戦略の下、第2四半期累計期間においては、中長期的な成長軌道に乗せるためのマーケティング活動費用などへの成長投資を戦略的に先行実施するとともに、マルコクレジットによる顧客基盤の拡大、販売促進施策の強化、商品ラインアップの拡充等の施策及び既存事業におけるコスト構造の見直しを継続して推進し、さらなる収益基盤の強化を進めてまいります。

当第2四半期累計期間における主な取り組みは以下のとおりです。

① 『マルコクレジット』（自社割賦／当社とお客様が直接、割賦販売契約を締結）制度の導入

マルコクレジットは、お客様のご購入に際してのご負担を軽減することを目的としており、これまでご購入に至っていなかったお客様の獲得、さらに手数料優遇施策など新たな営業施策として活用でき、新規のお客様の獲得のみならず既存のお客様の年間購入単価向上に繋がっていく制度になるものと見込んでおります。

なお、マルコクレジットを導入開始した本年6月には、②の販売促進施策との相乗効果もあり、6月単月売上高が前年同月比75.7%増加するなど、第1四半期業績に大きく貢献しております。

② 販売促進施策の強化

特別価格での販売や購入特典キャンペーンの実施など販売促進施策を積極的に実施してまいります。現在、ファンデーション・ランジェリーの基幹商品「カリーユ」シリーズの特別価格での販売やご購入金額に応じたプレゼント特典キャンペーンを実施するなど好調に推移しており、新たなキャンペーンを計画的に実施してまいります。

③ テレビCMなどメディアプロモーションの強化

商品の特性やサービスなどの情報を詳しく紹介するインフォマーシャル（テレビCM）の放送回数、エリアの拡大などメディアプロモーションの展開を積極的に実施し、新規顧客の獲得パターンの確立に取り組んでおります。業績への本格的な貢献は第3四半期以降を見込んでおります。

④ 新商品の投入による商品ラインアップの拡充

健康・美容関連商品の開発を精力的に進めており、第2四半期には、美容ドリンクの新商品投入を予定しております。また、割引特典などを付与した定期購入制度の導入も予定しており、利便性を高めるなど購入を促進してまいります。

これらの取り組みにより、第2四半期累計期間としては、4期ぶりの黒字化を見込むとともに、売上・利益ともに、当初社内で計画しておりました予算を大きく上回ることを見込んでおります。

以上の結果、第2四半期累計期間における業績予想は、売上高73億円（前年同期比11.2%増）、営業利益5億円（前年同期は2億42百万円の営業損失、7億42百万円の改善）、経常利益4億80百万円（前年同期は2億12百万円の経常損失、6億92百万円の改善）、親会社株主に帰属する四半期純利益7億円（前年同期は73百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失、7億73百万円の改善）と増収増益を見込んでおります。

**【配当予想について】**

配当予想につきましては、事業構造改革による諸施策が奏功し想定以上のスピードで業績改善が進んでおり、継続的に配当を実施できる収益基盤が整いつつあることを受け、これまで継続してご支援を頂いております株主の皆様への感謝の意を込めて早期復配を実施してまいりたいと考え、平成30年3月期期末配当として1.00円（年間1.00円）を予定とさせていただきます。

今後、より一層の業績向上を図り、株主の皆様へ還元できるよう増配を目指してまいります。

以上